

ご近所のお医者さん

□
759
□

吉田眼科院長 吉田晴子さん ー大阪市平野区

目の前に浮遊物？

明るい空や白い壁を見た時、目の前に糸くずや黒い点、透明な輪っか状のような浮遊物が見えた経験はないでしょうか。視線を動かすと一緒についてくるこの症状を「飛蚊症」と呼びます。目の中

は硝子体という透明なゼリー状の

組織で満たされています。何らかの原因で硝子体に濁りが生じると、その影が網膜に映り、あたかも虫や糸くずが飛んでいるように見えるのが飛蚊症のメカニズムです。



飛蚊症に気付いたら

飛蚊症の多くは加齢に伴う生理的飛蚊症です。一般的に60歳前後になるとゼリー状の硝子体が部分的に液体化し、網膜から離れる後部硝子体剥離が起こります。この過程で濁りが生じた

り、急にぴかっと光が見えた後に浮遊物が現れたりします。また、強度の近視がある方は20代ごろから飛蚊症を自覚することもあります。これらは老化現象の一種なので、多くの場合は治療を必要としません。

しかし、注意が必要なのは、目の病気が原因で起こる飛蚊症です。硝子体が網膜を引っ張ることで網膜に穴(網膜裂孔)が開くと急に飛蚊症が増加します。放置すると網膜がはがれる網膜

剥離へと進行し、視力を失う恐れもあります。

初期の網膜裂孔であればレーザー治療で網膜を凝固する方法によって、穴や裂孔の周りを固めることで進行を妨げますが、網膜剥離に至ると手術が必要です。また、糖尿病や高血圧による目の中の出血(硝子体出血)、目の内部にある虹彩・毛様体・脈絡膜などに

炎症が生じるぶどう膜炎などでも飛蚊症や目

のかすみが見れ、重症化すると手術や専門的な治療が必要となります。生理的なものか、病気によるものなのかを自分で判断することは非常に難しいです。「黒い点や糸くずが急に増えた」「光が走った」と感じたら、どのような原因かを判断するためにも、早めに眼科で検査を受けることが重要です。小さな違和感を見逃さず、早期発見・早期治療が大切な目を守ります。